

学園広報誌「窓」
Vol.196 2026 04.30

新宿キャンパス・ヒストリー

VISION150の振り返りと未来に向けて

工学院大学が育んだ人
VOL.1 伊藤文四郎

明治安

創立150周年に向かって

新宿キャンパス・ ヒストリー

新宿キャンパスは、
新宿駅徒歩5分のロケーションにある都市型高層キャンパス。
知・人・情報・文化がダイナミックに交差する
都市機能を教育資源とし、
完成時から大きな期待と使命が託されてきました。
創立150周年に向けてキャンパスの大規模改修をスタートし、
教育環境の向上を通じて、
本学のさらなる発展に貢献してゆきます。

1928 (昭和3年)

東京府豊多摩郡淀橋町に淀橋校舎落成。
工手學校から「工学院」へ改称

新しい場所での校舎再建をめざし、
30か所以上の候補地の中から選ばれたのが、現在の新宿キャンパスがある地です。
卒業生や財界からの寄付に支えられ、当時の学校建築としては大きなスケールの校舎が完成しました。
新校舎落成と同じ年に、工手學校より工学院へ校名を改称し、新キャンパスとともに新たな道を踏み出しました。



工手學校復興建築落成記念絵はがき



教育機関がいくつか立地し、交通機関の乗り入れも多いことから、その後の発展が当時も期待されていたのが西新宿。震災の経験を活かし、耐震・耐火に留意した鉄筋コンクリート3階建て643坪の大規模なキャンパスでした。



学園だけが
キャンパスではない、
新宿全体が
キャンパスである。

校地は校地だけにとどまることなく、教育はその環境とともにある

伊藤鄭爾元学長が提唱したのは「都市型学園」という、新宿の地の利を活かしたコンセプト。都心とは活発な知的活動の集中点であり、特に新宿は交通の便に恵まれ、商業はもとより、教育、文化、芸術、娯楽などが融合する首都の中の新都心。一方で、森や並木、豊かな自然環境にほど近く、温かさやゆとりを備えた人間都市でもあり、国際都市の側面も擁しています。教育や研究はキャンパス内で完結しているわけではない。この多面的な魅力を持つ環境は、今後の科学技術の発展を担う本学に大きなアドバンテージとなるのではないかと。この都市環境を教育・研究に積極的に活用し、世にも稀な独自性を持った学園へと発展させよう。学園にとって新宿キャンパスは大きな可能性を秘めていると考えたのです。



伊藤 鄭爾元学長

【出典】窓・42号 1981年1月20日発行／窓・43号 1981年4月4日発行／窓・44号 1981年6月29日発行／窓・50号 1982年10月31日発行

1887 (明治20年)



工手學校創立
翌年、東京府京橋区築地に校舎設置

文明開化が到来した明治時代の日本では近代国家の発展に工業化が不可欠であり、工業立国を推し進める優れた実践的技術者が必要とされていました。時代の要請に応じ、日本初の本格的私立工業学校として本学のルーツとなる工手學校が設立されました。

1923 (大正12年)

関東大震災で築地校舎が焼失
新宿仮校舎に移転

9月1日に発生した関東大震災(マグニチュード7.9)による火災と延焼の被害を受け、築地の校舎が焼失。校舎探しに奔走し、大震災の2か月後には新宿仮校舎(現 新宿キャンパス付近)に移転して授業を再開しました。

1989 (平成元年)

高層ビルキャンパスとして、
新宿キャンパスを建設

当時の政府は都心部大学の郊外移転を推進しており、本学も新宿校舎を移転するか、存続するかかの決断が迫られていました。学園がどの地にあるかというのは、学園の性格を決定づける大きな要因のひとつとなります。これからの学園の将来構想について度重なる議論と検討の結果、当時の伊藤鄭爾元学長はこの新宿の地にキャンパスがあることの重要性を訴えました。そして、新宿副都心にある大学として高層ビル型のキャンパスとしての再開発をめざす決断を下したのです。

1989年(平成元年)、地上29階、地下6階、日本初の超高層ビルの大学校舎となる新宿キャンパスが誕生。地上高133mは大学単独の施設では日本一を誇り、メディアでも話題となりました。

【出典】窓・43号 1981年4月4日発行

核なのである。
そのかけがえのない
新宿校地は
独自の確立であり、
学園の発展する道は



2015 (平成27年)
新宿駅から続く地下通路直結のラウンジB-ICHIを開設

2020 (令和2年)
1階新宿アトリウムを開設

2023 (令和5年)
学術情報センター「工手の泉」改修

2025 (令和7年)
新宿キャンパスの改修工事を開始



新宿キャンパスも竣工から四半世紀以上が経ち、2010年代からは改装工事に次々と着手し、教育研究活動の場の再整備をスタート。プロジェクトによって本学建築学部教員が関わり、時代に合わせた変化を遂げています。

新宿キャンパスのこれから

設備更新を中心に、教育・研究環境の向上もめざした大規模改修工事が始まっています。学生の学びの機会となるよう活用してゆきます。

進化する 新宿キャンパス

B-ICHIやアトリウム、「工手の泉」は学生にとっての居場所となる、居心地のよい空間として親しまれています。
2025年に改修が完了した4~6階の事務フロアでは、学生にとって相談しやすく、教職員にとって働きやすい環境が整いました。



1F | アトリウム

2020年に改修した、4階までの吹き抜けが特徴の開放的なアトリウムです。中心となる壁面(キネティック・ウォール)では多彩な表現が可能で、企業とのコラボレーションや学園祭、校友会イベントなど、さまざまな用途で利用されています。学内外の取り組みを発信し、人と人をつなぐ場として機能しています。

2F/3F | 学術情報センター 工手の泉

図書館機能と情報教育機能を融合した学術情報センター「工手の泉」。3階のライブラリでは調査・学修を支える資料を整え、2階の「Izumi pavilion」では18面の大型モニターを活用した授業やグループワーク、イベントが行われています。学び方に応じて使い分けられる、自由度の高い学びの拠点です。



B1F | B-ICHI

学園の歴史や教員の研究、研究室の活動を発信する展示スペースとしての役割を持ちながら、学生や教職員、来訪者が自然に集い、交流できるコミュニケーションの場としても親しまれています。



職員のワークスペースも改修。部署間のオープンな関係性づくりや職員の柔軟な思考を促し、働き方のアップデートをめざします。



4~6F | 事務フロア NEW

大学生生活全般をサポートする窓口・カウンターが設置され、学生にとってより便利で身近な相談の場となりました。学生が足を運びやすいようラウンジ型スペースを採用し、個室ブースも用意しています。

新宿キャンパスの これから

学園創立150周年、さらにその先の未来に向けて、2029年の改修完了をめざしています。
今後、教室・研究室があるフロアや長周期地震動対策の工事が進んでいきます。

今後の予定

- | | | |
|--|--|--|
| <p>2025年</p> <ul style="list-style-type: none"> 事務フロア改修 | <p>2029年に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> 長周期地震動対策工事 教室・研究室の改修 | <ul style="list-style-type: none"> 教室・研究室の仮移転工事 |
|--|--|--|



MESSAGE



Nozawa Yasushi

野澤 康 副学長 建築学部 まちづくり学科 教授

安全性や快適性ととも 学びの質の向上をめざして

今回の新宿キャンパス大規模改修は、皆さんの安全性・快適性や建物そのものの持続性の向上をめざして進められています。日々の授業や研究、その他さまざまな活動を通して、学びの質を向上させられる環境ができることをめざしています。使いながらの工事ですので長期間かかり不便なこともあるかと思いますが、ご理解・ご協力をいただくとありがたいです。新しい環境を上手使いこなして、充実したキャンパス・ライフを実現していきましょう。

教育研究環境・活動のさらなる充実へ、皆さまのご支援が力になります 「21世紀工手」育成募金

<p>募金募集概要</p> <p>募金目標額 4億円 寄付金額 任意の金額でお受けしております。 募金期間 2023年4月～2028年3月</p>	<p>支援の内容</p> <table border="0"> <tr> <td style="text-align: center;"> 学生・生徒の自主・創造活動支援事業 </td> <td style="text-align: center;"> 教育・研究環境充実のための施設整備 </td> <td style="text-align: center;"> 大学の教育研究活動の充実 </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"> 大学学生プロジェクト応援 附属中高部活動応援 </td> <td style="text-align: center;"> 大学教育支援環境整備 (学術情報センター工手の泉など) 附属中高における施設・設備の整備 </td> <td style="text-align: center;"> 広く大学学生の教育や研究活動に資するもの </td> </tr> </table>	 学生・生徒の自主・創造活動支援事業	 教育・研究環境充実のための施設整備	 大学の教育研究活動の充実	大学学生プロジェクト応援 附属中高部活動応援	大学教育支援環境整備 (学術情報センター工手の泉など) 附属中高における施設・設備の整備	広く大学学生の教育や研究活動に資するもの
 学生・生徒の自主・創造活動支援事業	 教育・研究環境充実のための施設整備	 大学の教育研究活動の充実					
大学学生プロジェクト応援 附属中高部活動応援	大学教育支援環境整備 (学術情報センター工手の泉など) 附属中高における施設・設備の整備	広く大学学生の教育や研究活動に資するもの					

詳しくは ▶ 皆さまからのご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

VISION150の振り返りと未来に向けて

創立150周年に向けて学園が一つとなって新たなスタートを切るために、長期目標「VISION150」や中期計画の点検と見直しを進めています。参画型の大学づくりの第1弾として、教員や職員をはじめ、学生や卒業生、企業の方々など、工学院大学に関わる皆さまにステークホルダーインタビューを実施。多様なステークホルダーのご意見を重要視しながら、長期ビジョンや中期計画の策定を進めてまいります。

インタビューから抽出する要素は、中期計画検討のための議論の土台となる

教育や研究、組織に至るまで、プラスとマイナスの意見を各ステークホルダーから伺いました。それぞれの意見を受け止めながら、150周年に向けたこれからの本学の在り方を追究していきます。今後も状況をお伝えしていきます。



インタビュー概要

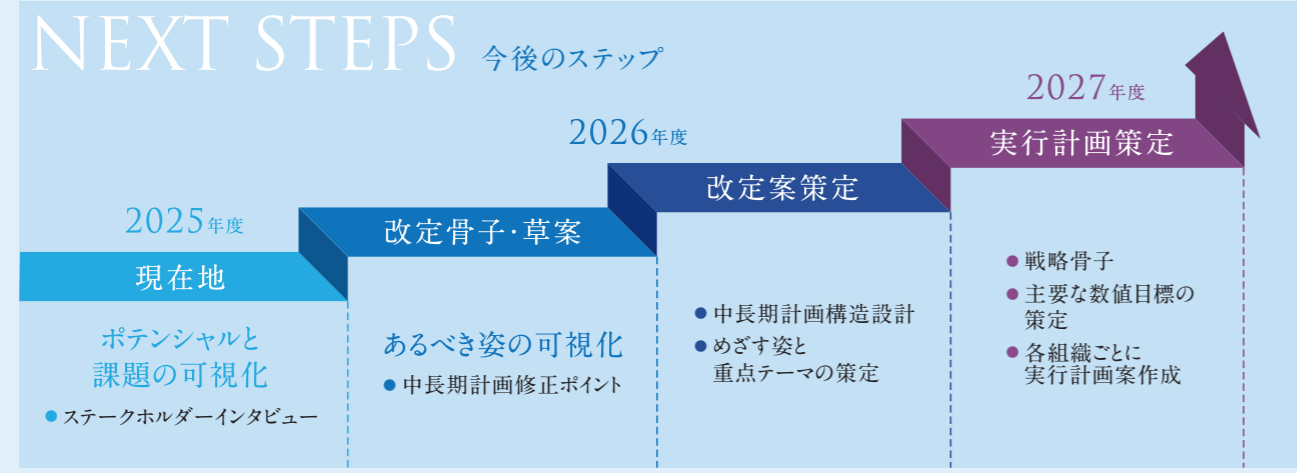
実施期間：2025年11月13日～2026年2月18日対象
 対象：合計50組51人 職員10人／大学教員11人／役員3人／学生9人／卒業生3人／附属中高教員2人／校友会3人／保証人2人／高校教員3人／企業3人／地域連携2人
 テーマ：8テーマ+特筆点 教育／就職キャリア支援／課外活動・学生プロジェクト／研究／産学連携・地域連携／入試・募集・高大接続／人材・組織／キャンパス・施設／特筆点(中期計画について)

対話を重ね、変化する社会要請に応える大学へと進化します

長期目標「VISION150」や中期計画の見直しに向け、教職員・学生・卒業生・高校関係者・企業など幅広いステークホルダーへのインタビューを行いました。現場で感じる強みや課題、将来への期待を率直に伺い、多様なご意見を頂きました。これらの声を丁寧に整理し、優先順位を明確にしたうえで、次の計画に反映し、着実に推進してまいります。対話を重ね、変化する社会要請に応える大学へと進化します。今後ともご協力頂ければ幸いです。



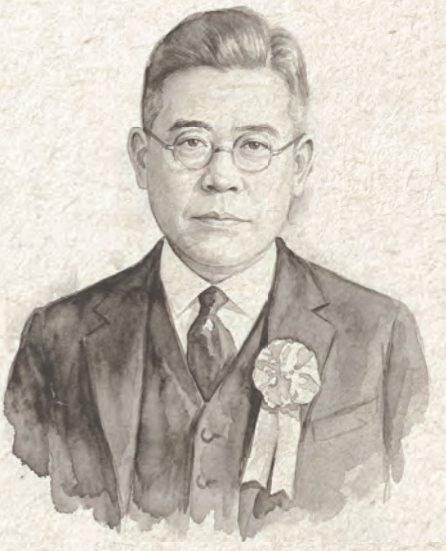
鷹野 一朗 常務理事 工学部 電気電子工学科 教授



工学院大学が育んだ人

VOL.1

伊藤 文四郎 (1882-1966) ITO BUNSHIRO



アメリカで建築学を学び、日本に西洋建築を広める。

工学院大学の前身である工手学校で学んだ伊藤文四郎は、卒業後は日本国内で働いたのちアメリカに渡り建築家資格を取得しました。帰国後、ルネサンス様式を取り入れた洋風建築を設計したほか、曾禰達藏、佐野利器、武田五一ら当時の建築界の重鎮たちを助け、日本郵船ビル、東京帝国大学図書館、帝国ホテルなどの建設に携わり、本学の淀橋校舎(旧新宿校舎)の建設部長も務めました。伊藤文四郎は晩年、勲五等旭日双光章を受章しました。明治から昭和の激動の時代に活躍した建築家として、その歩みと仕事は今後も語り継がれるべきものです。

赤穂村役場

大正期の村役場としては珍しい、パラディアンズムと呼ばれる建築様式が採用されています。長野県東伊那村(現駒ヶ根市)出身の伊藤が東京での仕事の傍ら、地元の村役場の設計を手掛けた、地元への深い思いが感じられる作品です。設計した赤穂村役場庁舎は移築され、現在は駒ヶ根市郷土館として保存されています。



八王子キャンパス松風舎にある野口尚一初代学長の顕徳碑には伊藤作の歌が刻まれています。



伊藤文四郎設計の赤穂村役場 1922年(大正11年)設計、現・駒ヶ根市郷土館
 旧赤穂村役場 一階の玄関ホール
 特徴的なパラディアン・ウィンドウ
 玄関出入口

活躍する卒業生



ポッカサッポロフード&ビバレッジ株式会社
 代表取締役社長 佐藤 雅志氏 1989年 工学部化学工学科 卒業

百の失敗よりも一つの後悔をしたくない 失敗を積み重ねた先に、道は拓ける

工学院大学の研究活動では、どうやったらうまくいこうと試行錯誤した結果、自分の中でなんとか納得のいくものを仕上げた経験が自信になりました。学生時代は、最短距離でゴールをめざすよりも、時間がかかってもさまざまな経験をしてほしいと思います。

#KUTE VOICE
 エンジニアリーダたちの声
 WEBで各業界で活躍する先輩たちのメッセージを公開中

入学おめでとう! 実り多き学生生活へ 2026年度大学・大学院入学式



4月3日(金)、京王プラザホテルにて入学式を行い、新入生が新たなスタートを切りました。今村保忠学長は大学生活を通じて未知に向き合い、問いを立てながら自らの可能性を広げてほしいと歓迎の言葉を贈りました。式終了後には、新入生が友人たちと写真撮影を楽しむ姿も見られました。



入学式宣誓(抜粋)

私は人々の暮らしを支える住宅づくりに興味があり、建築学について基礎的な事から環境と住宅の共生や、コンピュータ技術を活用した建築設計など、幅広く学びたいと思い、大学では建築学部を志望しました。私たちは、それぞれが抱く高い志のもと、互いを尊重しながら切磋琢磨し、社会に貢献できる人間へと成長することをめざします。



新入生代表 建築学部
小林 周史さん

2025年度 大学・大学院の 学位授与式を挙



3月19日(木)、京王プラザホテルにて工学院大学・大学院の学位授与式を行いました。式辞において今村保忠学長は、知を深め問い続ける姿勢を大切にする「科学の文化」に触れ、これから社会へ羽ばたく卒業生へメッセージを送りました。

学位記交付の後、卒業記念祝賀会が開催されました。研究室や学生プロジェクトなどの仲間同士でテーブルを囲み、在学中の思い出話に花を咲かせるなど、会場は終始和やかな雰囲気になっていました。

卒業生代表謝辞(抜粋)

同じ志をもつ仲間とともに切磋琢磨し合う中で、チャレンジすることの面白さに気づかされました。そして、解った喜びをみんなで分かち合ったあの瞬間、みんなの笑顔、まるで昨日のこのように思い出されます。最終学年の卒業研究では、仲間と活発に意見を交わしながら、課題解決に取り組むことができました。そのどれもが、忘れることのない、かけがえのない財産となりました。



工学部 機械システム工学科
波多野 哲也さん



附属中高NEWS

未来への一步を踏み出す — 2025年度卒業式、2026年度入学式を挙

中学・高校で卒業式を行いました。3月23日(月)に中学の112名が、3月3日(火)には高校の292名が巣立っていきました。ご卒業おめでとうございます。皆さんの今後の活躍、元気な便りが届くことを楽しみにしています。4月8日(水)には、中学・高校それぞれの入学式を挙。中学校120名、高等学校318名の新入生を迎えました。高校入学者のうち約3分の1は中学からの進学者となります。中野由章校長が式辞で祝意を述べ、「結果ではなく、挑戦することそのものを楽しんでほしい」と新入生に語りかけました。



2026年 年間イベント

- 5月16日(土) プレ八王子祭
- 9月21日(月) 八王子祭
～ 22日(火)
- 9月26日(土) 夢工祭
～ 27日(日)
- 10月31日(土) 学園創立記念日
- 11月20日(金) 新宿祭
～ 22日(日)

編集後記

新宿キャンパスは、学びの拠点として時代の要請に応じて姿を変えてきました。本号では、関東大震災後の移転から現在に至る歩みを振り返り、アトリウム改修をはじめとする近年の更新、そして大規模改修に向けた取り組みを紹介しています。これらは見た目の刷新だけでなく、学びと研究の質を高めるための投資で、学生が安心して挑戦できる環境を整えてゆきます。今後は中長期計画の点検・見直しを深め、次の検討フェーズへと進みます。校友・関係者の皆さまとともに、次の工学院を築いてまいります。引き続きご支援を賜れますと幸いです。



石野 利和 常務理事



工学院大学経営企画部 窓編集チーム
gakuen_koho@sc.kogakuin.ac.jp